



県央支部版

ひやくまん穀通信

第2号

生産者部会県央支部
平成31年4月発行

1 5月連休中に田植え

「ひやくまん穀」の多収品種という特性を十分発揮させるためには、登熟期間の日射量を十分に確保する必要があります。

8月10日以降に出穂すると、登熟期間の日射量が不足して、収量や品質が低下する可能性があります。



**5月連休中の田植えの実施
(8月10日までに収穫させる)**

老化苗を植えないためにも5月連休中に田植えをしましょう。

※良い苗は葉齢2.5葉の稚苗です

活着を促すため、天気の良い日に田植えをしましょう。



2 栽植密度は60株/坪以上

「ひやくまん穀」は穂数を確保しにくい品種です。60株/坪植え以上により、目標穂数360本/m²の確保に努めましょう。

70株/坪植えを推奨する地域

ひやくまん穀の穂数確保には早期分けつが重要です。以下のような地域では、穂数確保のため70株/坪植えをおすすめします。

- ①灌漑水を河川水や山水等にたよっており、用水が冷たい地域
- ②山影等、日射量が少なく、水温が上がりにくい地域

3 施肥量はコシヒカリ+N成分3kg

《参考》

◎一発肥料の場合

コシヒカリ基肥一発肥料 (BB 新コシ一発くん特号、BB 有機入りコシ一発くん)	ひやくまん穀基肥一発肥料 (ひやくまん穀一発くん)
30 kg/10 a (N : 6 kg)	32 kg/10 a (N : 9 kg)
35 kg/10 a (N : 7 kg)	36 kg/10 a (N : 10 kg)
40 kg/10 a (N : 8 kg)	39 kg/10 a (N : 11 kg)
45 kg/10 a (N : 9 kg)	43 kg/10 a (N : 12 kg)

◎分施肥系の場合

肥料名	コシヒカリ	ひやくまん穀
BB JA金沢市 水稻基肥	25 kg/10 a (N : 2.5 kg)	40 kg/10 a (N : 4 kg)
	30 kg/10 a (N : 3 kg)	45 kg/10 a (N : 4.5 kg)
	35 kg/10 a (N : 3.5 kg)	50 kg/10 a (N : 5 kg)

※追加穂肥分と合わせて、窒素分量+3kgとなります

前年、倒伏したほ場は減肥しましょう！

倒伏は、収量・品質を低下させる要因となります。前年倒伏したほ場はひやくまん穀一発くんの場合、3.5~7kg/10a(窒素量で1~2kg/10a)を目安に減肥する。

4 活着後は浅水管理

田植後は深水管理(5cm程度)を行うことで、低温や風から稲を守り活着を促します。

活着後(田植え1週間後)は、浅水管理(3cm程度)とし、水温や地温を上昇させ分けつの発生を促進しましょう。

栽培履歴を忘れずに記入してください！